

■ 発表者および共同提案者

※発表者は番号右側に○印を付してください。

※共同提案の場合は最大8名とします。

No.	氏名	ふりがな	所属・学部学科等	学生の場合 学年
1	久保 光徳	くぼ みつのり	千葉大学・教授	年
2				年
3				年
4				年
5				年
6				年
7				年
8				年

● 留意点

- ① データはファイル名を『応募：団体・学校名_チーム名.xlsx』として、必ずExcelファイルで送信してください。
例 応募：〇〇高校_△△チーム.xlsx ※ 左記 “_ (アンダーバー)” は半角としてください。
- ② 当書式のまま文字が欠けないように改行し、また行・列のセル追加、フォント変更などをしないでください。
提案に際しシート1) および2) の他に添付資料等がある場合には「3) 添付資料」シートを追加しても構いません。
追加は2シートまでとして必ず各シートにおいて印刷設定が「A3用紙横1枚分」となるように提出してください。
- ③ シート1) 以外の用紙において、表現方法は基本的に「自由」です。
文章、手書きスケッチ、デザインソフト使用、写真など、データに貼り付けが可能であればよいです。
模型などの現物提出は不可としますが、これを撮影した写真データであれば同様に貼り付けてください。

■ 課題

地元地域に根差した防災・減災、SDGsをテーマに得意分野のスキルを最大限に活かしたアイデアとし、
アプローチは、DX、システム、IoT、構造物、機器類物質、素材、薬品などを問わず、
仮に実現性が低くとも、既知・既存の対策、理論に捉われない提案を望む。

■ 作品要旨

フォント指定：12pt（変更不可）

1) 提案趣旨

与えられたものと情報のみで日常を送りがちな都市部の生活に潜在する脆弱さに注目し、身の回りの出来事、
事象の変化への気づきを誘導し、自ら感じ、意識することで生きる力を取り戻すための知識を体系化する。

2) 提案背景

災害に対する都市機能およびそこで生活する人の非常時に対する耐性の低さは議論を待つまでもないでしょう。
その一方で容易に取得できる様々な情報にあふれています。それを有機的に接続し活かしたいと考えます。

3) 具体的対策

一般に公開されている漁業気象や気温変動などの自然現状の情報に限らず、SNSにおいてテキスト化されてい
る動物や植物の変化、さらには身近な人の動き、感情の変化までも関連付け、高次元の「気配」として定義する

4) 期待できる効果

統計的なアプローチを活用したナレッジベースの発展と、災害予測や心理的備えにおいての実用性の向上が期
待できる。さらには、個々人の感覚やSensibilityを大切に、コミュニティとのつながりを通じて共に成長し、
安定した社会を築くための取り組みのキッカケとなり得る。

5) 今後の課題

今回は初期段階の概念設定に留まっていますので、この取り組みに賛同いただける多くの他業種・多領域の方々
と連携を取りながら、“より良く生きる”ためのホリスティックなシステム構築を目指す必要があります。

- ④ 上記「作品要旨」における番号、項目は仮に設定していますが、移動、削除は適宜行ってください。

項目立ては限定しませんので、適宜、番号を付して記入してください。

ただし、行の追加は不可としますので、表記文が当用紙に納まるようにまとめてください。

項目例) 背景、現状、課題、目的、意義、方法・手法、考察、結果、結論、まとめ、今後の展開・展望、参考文献 他

※ 参考文献からの図表、写真などの引用資料については出典元を必ず明記してください。

⑤ 審査方法

当「減災サステナブル技術協会」に属する審査委員で構成する審査委員会にて審査・評価します。

審査委員の数名に加え、特別審査委員として国内大学教授ら複数名により審査し、総合評価をします。

KEHAIsプロジェクトとは？

Knowledge-base encouraging Holistic Awareness for Incidents

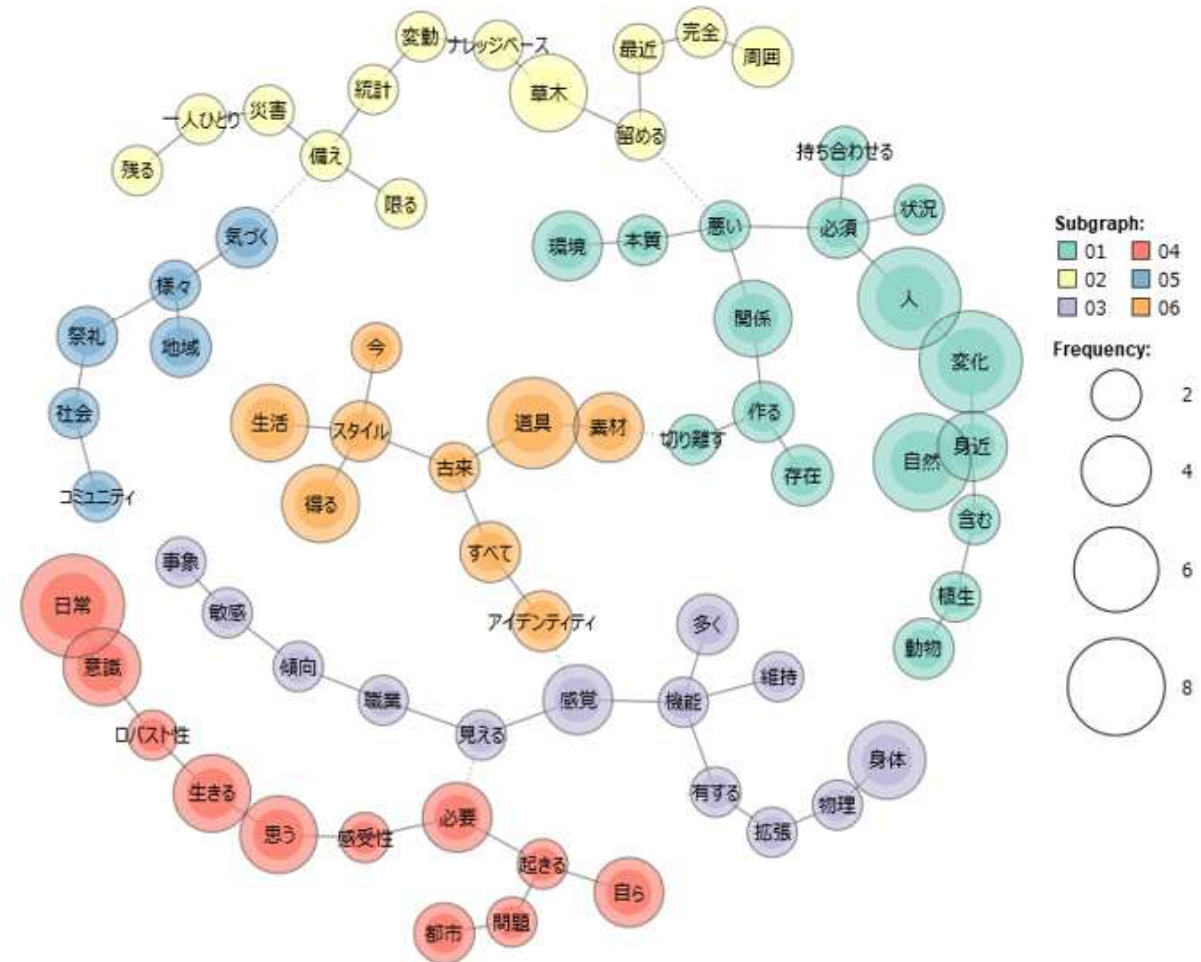
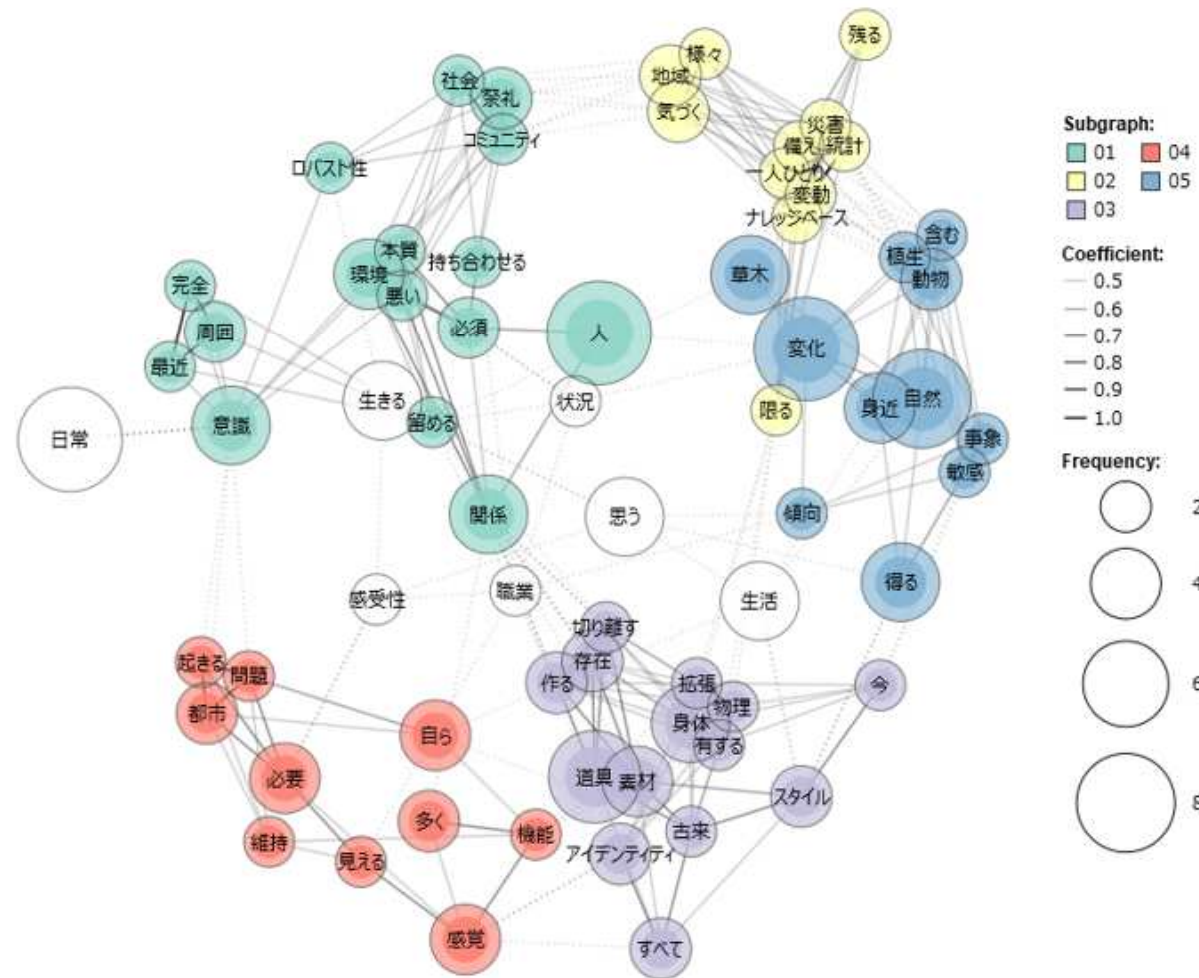
- 自然現象や動物・人の行動など、多岐にわたる要素を統計的に分析し、災害の発生を予測するナレッジベースを構築する。
- 「気配」を統計的に関連付け、災害への日常の心理的な備えに資する。

KEHAIsの提案に向けて

- 自然現象や人間の生活において、統計的なアプローチが災害予測や心理的備えに有益であることを示唆。
- 古来の生活スタイルや自然素材の活用から学び、現代社会における非日常に対するロバスト性の重要性を強調。
- 職業や祭礼を通じて、感覚やSensibilityが個々のアイデンティティ形成に影響を与えていることを認識。
- 身体性と道具の関係性の重要性を再確認し、存在価値やアイデンティティの土台として感覚の重要性を強調。

KEHAIsを構成するもの

ホリスティックな気づきである「気配」の構造





KEHAIsプロジェクトの展望



- 統計的なアプローチを活用したナレッジベースの発展と、災害予測や心理的備えにおけるの実用性の向上を期待。



- 古来の知恵や生活スタイルを現代に応用し、持続可能でロバストな社会構築に貢献。



- 個々人の感覚やSensibilityを大切にし、コミュニティとのつながりを通じて共に成長し、安定した社会を築くための取り組みを進める。

